
町長行政報告

次に、町長から行政報告の申し出がありますので、これを許可いたします。

はい、飴谷町長、どうぞ。

町長(飴谷長藏君) 平成16年第2回白老町議会臨時会の開会に当たり行政報告を申し上げます。

はじめに、町制施行50周年記念キャッチフレーズの決定についてであります。

募集については、広報及び町内各小・中・高等学校等を通じ広く呼びかけを行った結果、388名の方から748点という多くの作品が寄せられましたが、先月31日に行った最終選考会で、この中から、竹浦中学校1年の久保隆宗君の作品、「つたえよう 北の文化と 自然のめぐみ 夢いっぱい元気まち」復唱いたします。「つたえよう 北の文化と 自然のめぐみ 夢いっぱい元気まち」に決定いたしました。

この作品からは、白老町の歴史や文化、そして豊かな自然を大切に、後世に引き継いで行きたいといった思いが感じ取れることが、選考の大きな要因となりました。

今後は、役場庁舎前に記念アーチを掲げるとともに、各種記念事業の冠名やPR活動などに使用することで、皆さんとともに50周年の気運を盛り上げて行こうと考えております。

次に、「白老中核イオル整備基本計画」についてであります。

本町が、アイヌ民族の伝統的生活空間(イオル)の再生拠点となる「中核イオル」の整備適地に選定されて以来2年が経過し、この間、早期実現に向け、国及び北海道など関係機関に対する要請活動を展開してきておりますが、この度、町内18団体で構成する中核イオル整備促進期成会の幹事会で策定した「白老中核イオル整備基本計画」について、先般、代表幹事から報告を受けたところであります。

この計画書は、イオル再生構想の早期実現を図るため、中核イオルの責務と全アイヌ民族の痛切な願いであることを第一義に、提言として策定されたもので、町としては今後も、関係機関等と協力体制を密にし、本計画を有効に活用しながら国家施策として緊急に取り組んでいただけるよう強く要請してまいりたいと考えております。

次に、町立国民健康保険病院の医師充足についてであります。

町立病院に勤務する医師数が医療法で定める標準数に不足していることから、かねてより、札幌医科大学地域医療支援センターの医師派遣制度を受けることとして要請を行ってきたところ、5月1日付けで呼吸器内科医師1名の派遣が認められました。

この制度は、医師確保が困難な市町村立の医療機関に対して、固定医師が確保されるまでの間、4年を限度に10名枠、昨年までは5名枠でございました。10名枠の中で、希望市町村の優先性が審査され、派遣が認められる制度であります。これによりまして、内科診療体制が強化され、町民に、より安定的な医療の提供が可能となるものであります。

次に、白老港の今後の整備についてであります。

今後予定している第三商港区については、先の執行方針でも申し上げたとおり、港内の静穏

度向上を図るための島防波堤及び臨港道路の建設費約 2 億 7 千万円並びに第三商港区の調査設計費約 2 億円、計 2 億 9 千万円にて予算要望を行っていたところではありますが、今般、国土交通省より、「要求額のほぼ満額 2 億 9 千万円は確保されたが、港内の静穏度向上を優先すべきとのことで、調査設計を平成 1 7 年度予算要望したい。」との説明を受けたところでありませぬ。

北海道内において、本年度、港湾関係の予算が大幅に減額となった中で、白老港の要求額が、ほぼ満額確保できたことは、議員の皆さまはじめ関係機関のご支援と、白老港が道内地方港湾の中でも、重要な役割を果たしていることが広く認められたものと認識しております。

今後につきましては、第三商港区の整備促進に向け、関係機関の協力を得ながら取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本臨時会には、議案 2 件、承認 5 件を提案申し上げますので、よろしくご審議賜りたいと存じます。
